

船橋日本語学院 2025年度 自己点検・自己評価チェックリスト

理念・教育目標
(理念・ミッション)
広く世界の青年に日本語を習得させるとともに、日本文化についての理解を深め、国際協調、国際理解の精神に則り、国際社会の発展に貢献できる人間を育成する
(教育目標)
・日本語能力をN2、N1合格レベルまで高めると共に、日本語による表現力を伸ばす。 ・日本の生活習慣、文化について理解し、国際人として日本社会で生活できるようにする。 ・希望する高等教育機関への進学を実現する。
(育成する人材像)
日本社会に溶け込めるよう日本語コミュニケーション能力と社会常識を備えた人材を育成していく。

点検・評価項目	
1. 教育理念・目標	評価
1.1 学校の理念、目的・目標や育成する人材像が明確になっているか	A
1.2 学校の理念、目的・目標は、社会のニーズに合致したものになっているか	A
1.3 学校の理念、目的・目標は達成されているか	A
国際社会の発展に貢献できる人間を育成する理念のもと、校長をまとめ役として、年4回の教職員全体会にて、理念・目標、学校の教育役割の確認を行っている。また、教育の目標とその目標を実現するための細分化された実施項目については、前年度の結果を受けて毎年見直しを図り、学生ニーズの実態に即した内容になるよう努めている。	
2. 学校運営	評価
2.1 理念や目的に沿った運営方針や事業計画が策定されているか	A
2.2 組織運営や人事、財務管理に関する規定や意思決定システムが整備されているか	A
2.3 コンプライアンス体制が整備されているか	A
年度事業計画、収支予算計画は年度開始前に策定され、評議員会、理事会にかけられ承認を受けている。事業計画の遂行に必要となる組織体制、人事についても理事会にて確認を行っており、所轄官庁への法令に従った各種届出・申請事項は滞りなく行われている。	
3. 教育活動	評価
3.1 教育理念に沿った教育課程が体系的に編成されているか	A
3.2 学生が到達すべき日本語能力の目標が明示されているか	A
3.3 成績評価や進級、修了の判定基準は明確であり、適切に運用されているか	A
3.4 教員の指導能力向上のための取り組みがされているか	A
3.5 教育課程の改善のために取り組みがなされているか	A
学校長をまとめ役として、各科目担当教員によるカリキュラム会議を9月と3月に行っており、学習状況、成績評価などの教員からの報告、また、学習者からのコメントなどからシラバスを見直し、教材の変更・開発等を行う。必要に応じてカリキュラムの立案・変更等を行っている。 また、レベル会議を設定しており、各日本語レベル（初級Ⅰ、初級Ⅱ、中級Ⅰ、中級Ⅱ、上級）のレベル主任を中心とし、各レベル担当の全教員が各学習者の学習の状況、成績などについて中間報告し、各学習者がそのレベルの水準を満たせるように具体的な対策について検討している。 担任と学習者による個人面談を各学期に実施するしており、個別の希望に即した学習指導を行っている。 年に4回の定期研修を含め、公開授業、研究授業を行うことで教員の指導能力向上を図っている。	
4. 学修成果	評価
4.1 卒業認定のための評価がなされているか	A
4.2 学習レベルの到達評価がされているか	A
4.3 学生の進路を適切に把握しているか	A
年度授業終了時に全担任出席による卒業判定会議を開催し、卒業認定について認定条件の確認を行っている。また合わせて全学生の資格の取得状況、進路状況の確認を行い、次年度の目標設定について話し合われている。	